

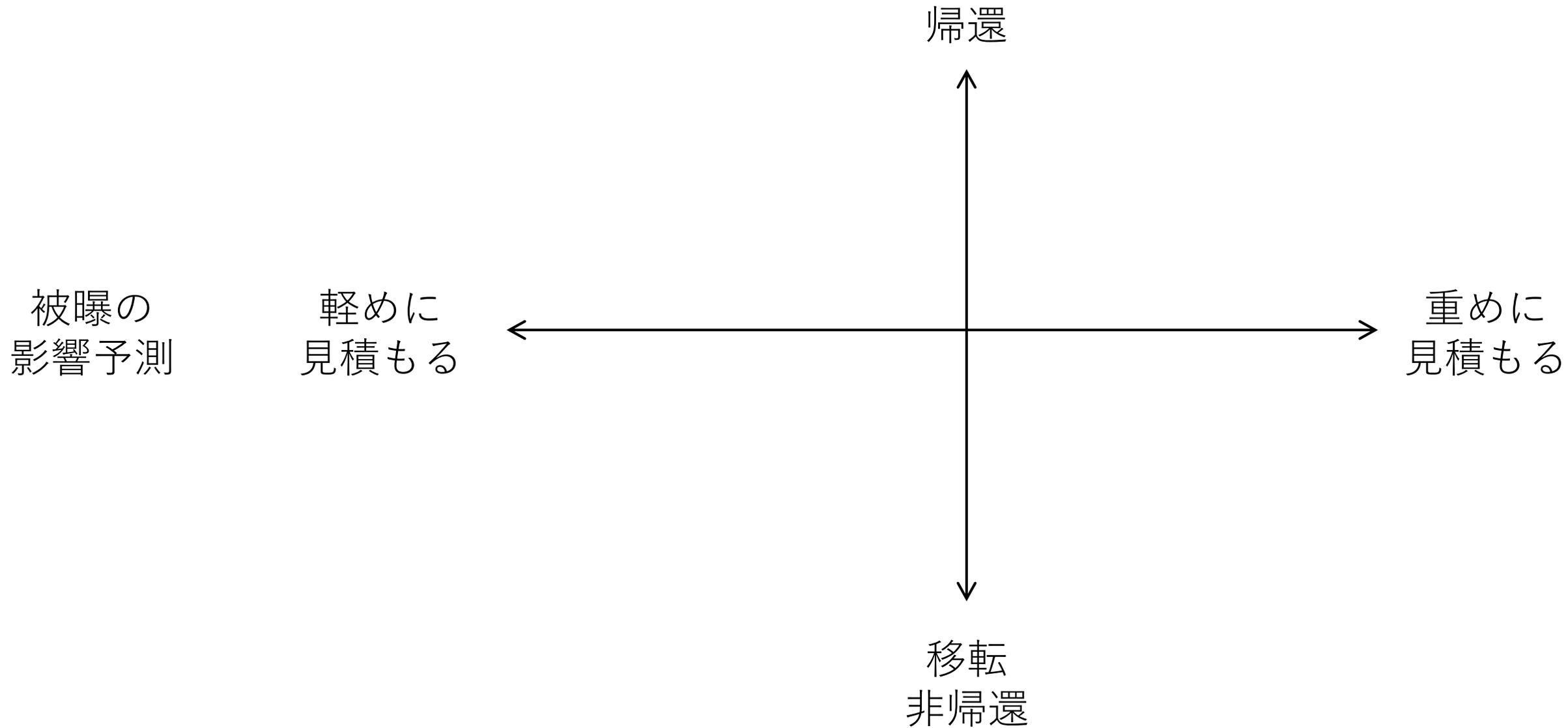
原発災害の示唆

今とは異なる都市計画とは？

窪田亜矢 東北大学 教授 ayakubota@tohoku.ac.jp
2023年4月から着任、専門「地域デザイン」
大槌町赤浜地区や南相馬市小高区/浪江町/大熊町等



原発事故避難者の現状



原発事故避難者の現状

被曝の
影響予測

軽めに
見積もる



重めに
見積もる

帰還



移転
非帰還

問題 1

このように分けること自体に問題がある？
分け方にも問題がある？

原発事故避難者の現状

被曝の
影響予測

軽めに
見積もる



重めに
見積もる

帰還



帰還困難区域
中間貯蔵施設

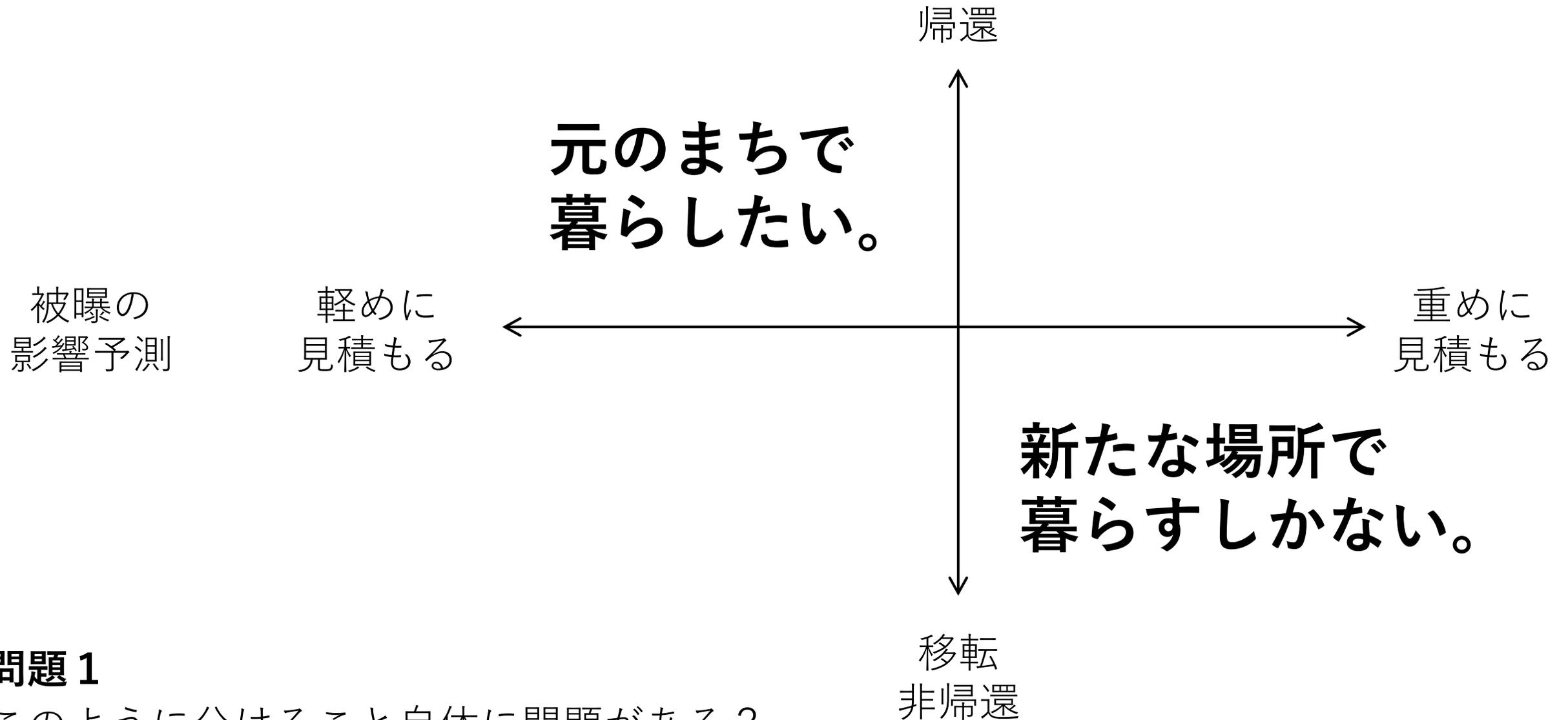


移転
非帰還

問題 1

このように分けること自体に問題がある？
分け方にも問題がある？

原発事故避難者の現状



問題 1

このように分けること自体に問題がある？
分け方にも問題がある？

原発事故避難者の現状

被曝の
影響予測

軽めに
見積もる

← **そんなに単純ではなかった** →

重めに
見積もる

帰還

元のまちで
暮らしたい。

新たな場所で
暮らすしかない。

移転
非帰還

問題 1

このように分けること自体に問題がある？
分け方にも問題がある？

原発事故避難者の現状

被曝の
影響予測

軽めに
見積もる



重めに
見積もる

帰還

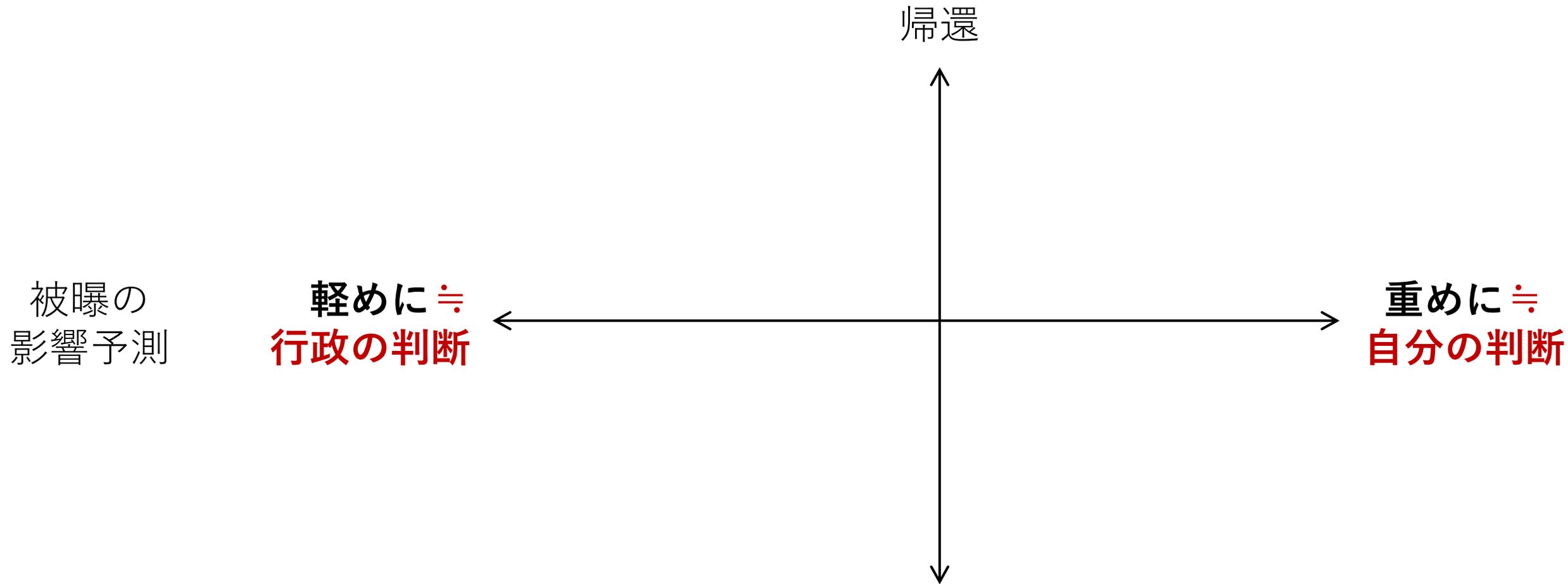


移転
非帰還

問題 1

このように分けること自体に問題がある？
分け方にも問題がある？

原発事故避難者の現状

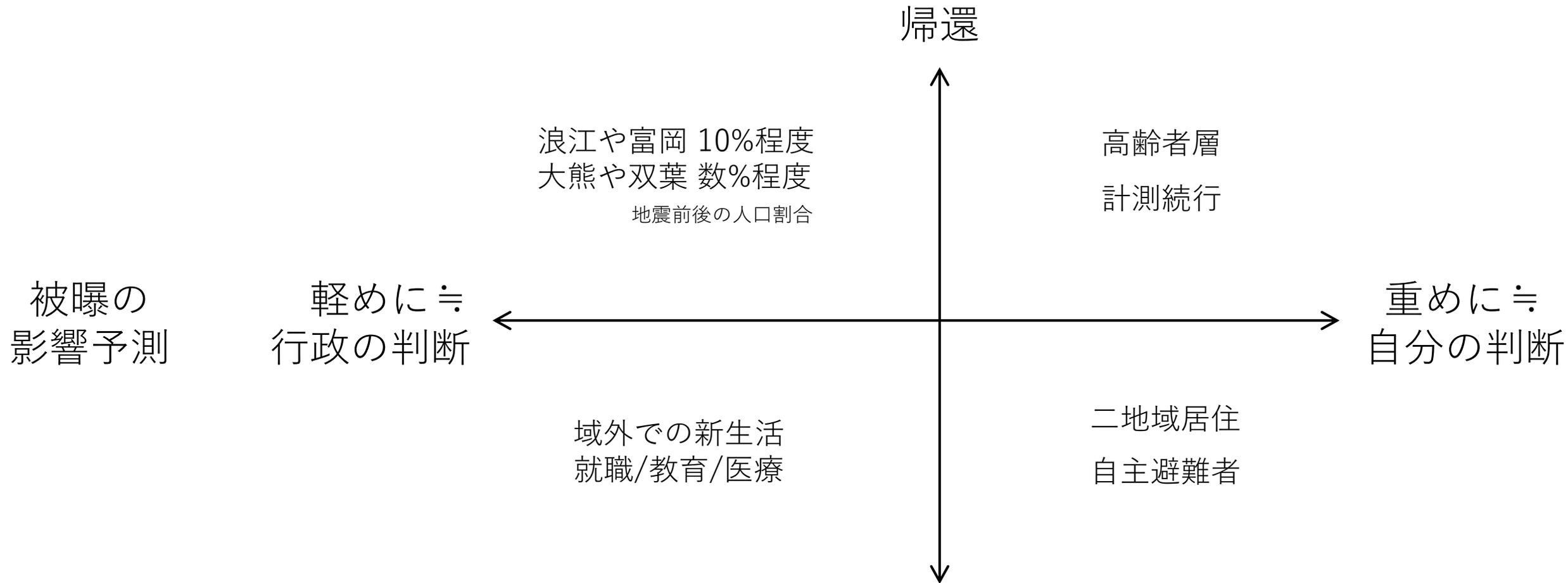


問題 2

専門家の知見には幅がある。にも拘わらず...

SPEEDI情報の非共有や初期被曝の非計測による行政への不信感

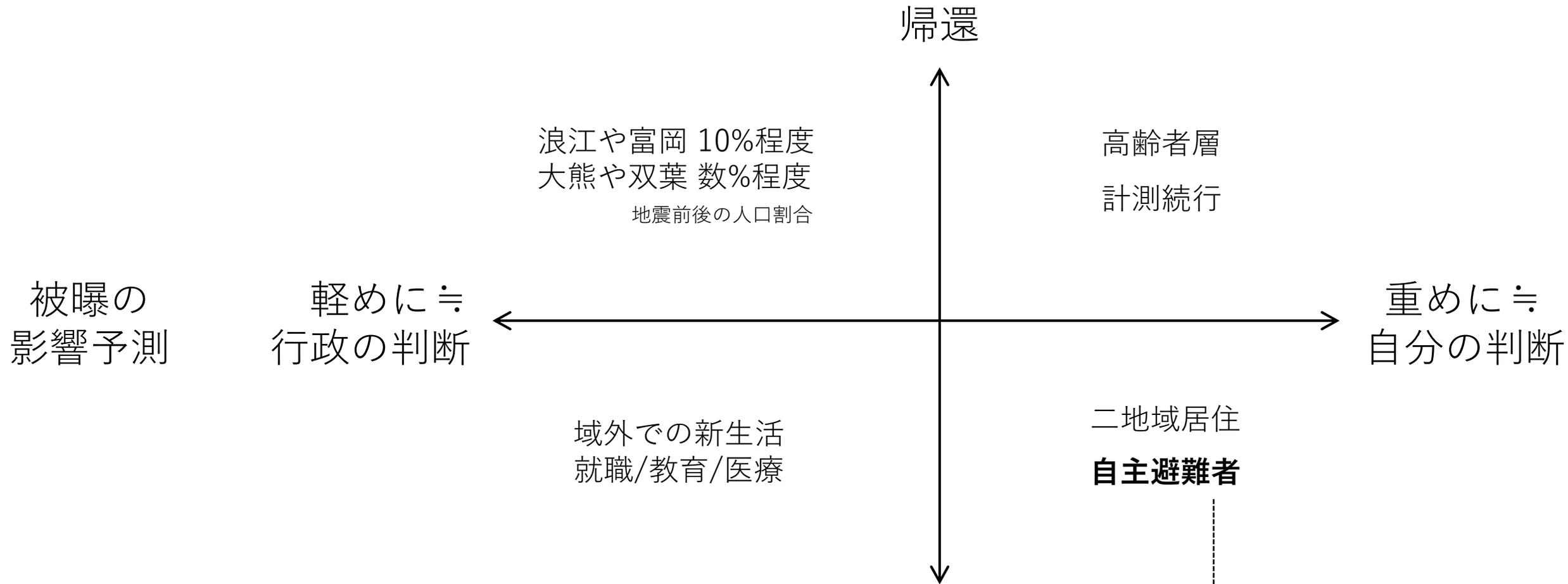
原発事故避難者の現状



問題 3

都市計画の限界や課題が露呈している
行政の判断が重過ぎる影響をもつ

原発事故避難者の現状

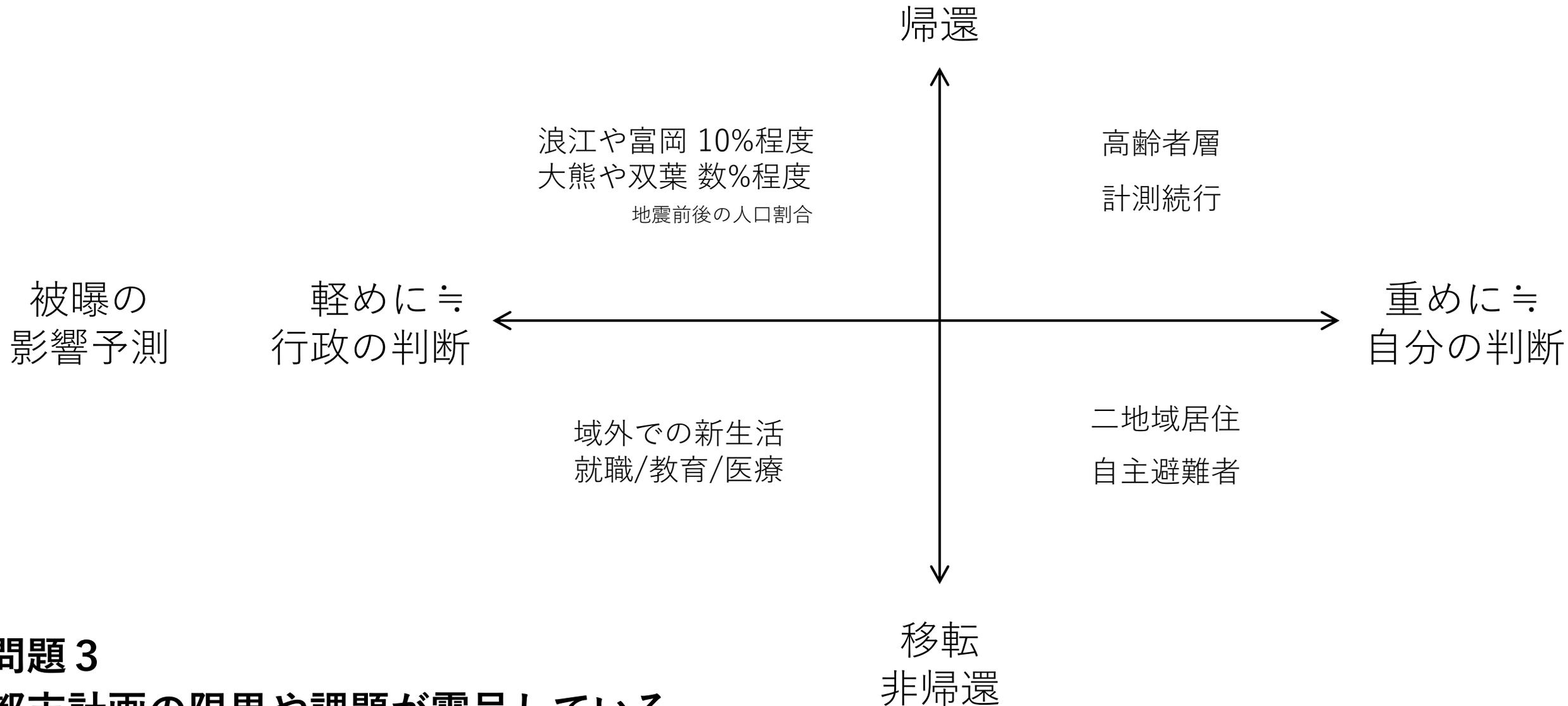


問題 3

都市計画の限界や課題が露呈している

行政の判断が重過ぎる影響をもつ ----- 「自主」な訳がない当事者の怒り + 「自主」への社会的非難

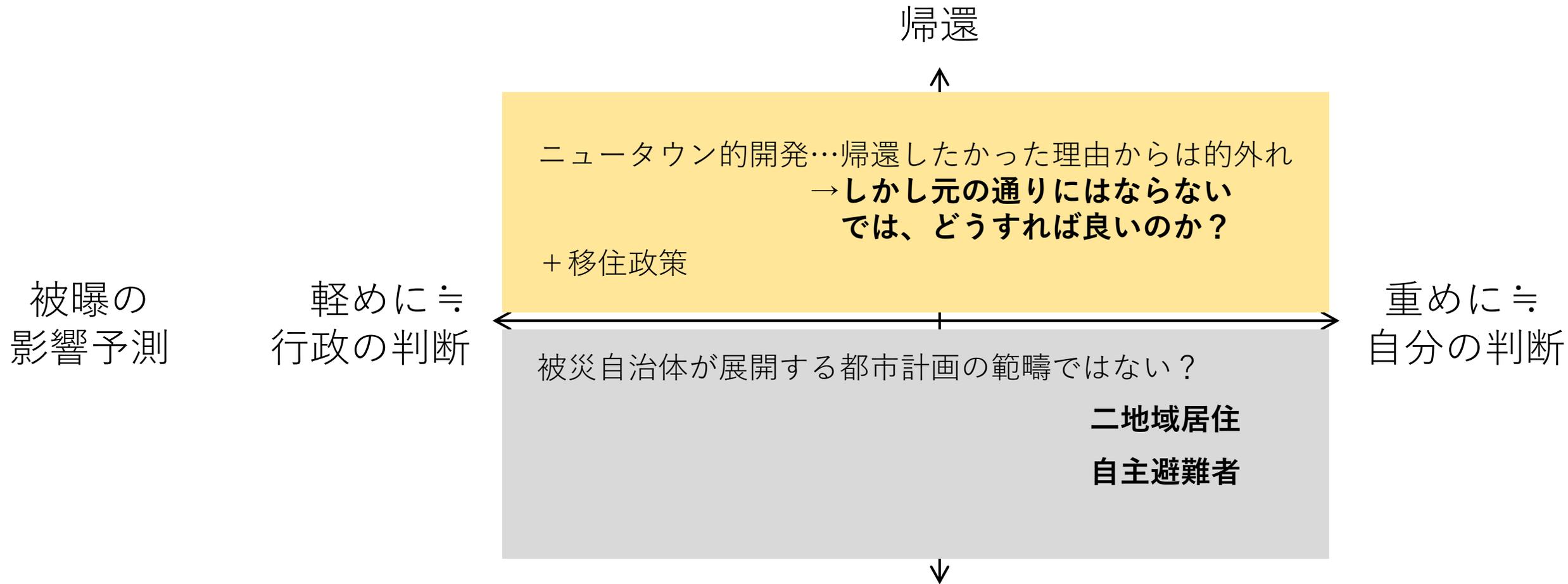
原発事故避難者の現状



問題 3

都市計画の限界や課題が露呈している
行政の判断が重過ぎる影響をもつ

原発事故避難者の現状



移転
非帰還

問題 3

都市計画の限界や課題が露呈している
行政の判断が重過ぎる影響をもつ

浪江町の「町残し」



馬場有町長

2012.4
どこにいても
浪江町民

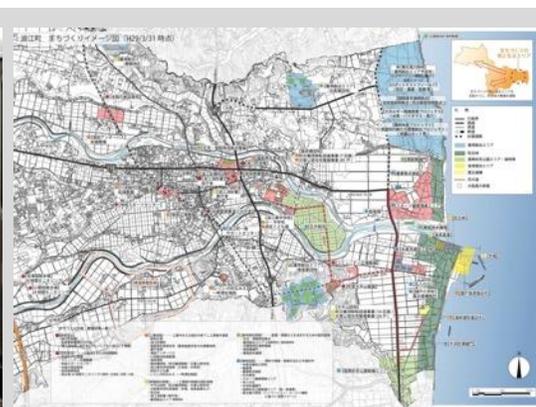
2017.2 避難指示解除の直前
『「町残し」をしなければならない。震災前は「町おこし」だったが、今は町が存続するのか、なくなるのかという岐路』

まちづくりイメージ図 2017.3

浪江町の「町残し」



馬場有町長



まちづくりイメージ図 2017.3



原田雄一さん



石倉団地隣接の商業コア

2012.4
どこにいても
浪江町民

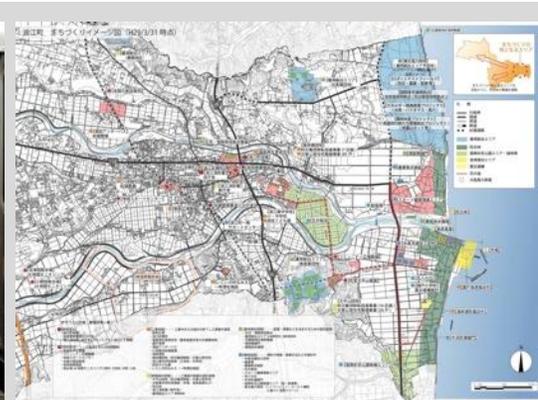
2017.2 避難指示解除の直前
『「町残し」をしなければならない。震災前は「町おこし」だったが、今は町が存続するのか、なくなるのかという岐路』

『町外コミュニティを作りたかった。ふるさととは生まれ育った場所だけではなく色々な人と築き上げた人間関係でもある。みんなでまとまって暮らせば浪江はいいなとなる。いつかみんなで帰れる。』

浪江町の「町残し」



馬場有町長



まちづくりイメージ図 2017.3



原田雄一さん



石倉団地隣接の商業コア

2012.4 浪江町民
どこにいても 『「町残し」をしなければならない。震災前は「町おこし」だったが、今は町が存続するのか、なくなるのかという岐路』

2017.2 避難指示解除の直前
『「町残し」をしなければならない。震災前は「町おこし」だったが、今は町が存続するのか、なくなるのかという岐路』

『町外コミュニティを作りたかった。ふるさととは生まれ育った場所だけではなく色々な人と築き上げた人間関係でもある。みんなでまとまって暮らせば浪江はいいなとなる。いつかみんなで帰れる。』

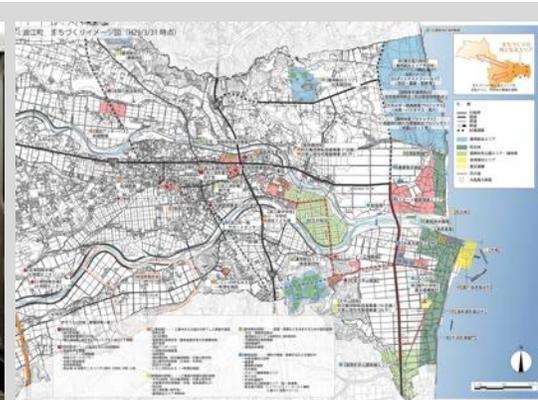
反実仮想：今とは異なる、もう一つのあったかもしれない姿

密な人間関係を可能にする町外コミュニティが実現していたら、みんなで帰還できたかどうかは不明。しかし、みんなで集まって帰れたかもしれない。

浪江町の「町残し」



馬場有町長



まちづくりイメージ図 2017.3



原田雄一さん



石倉団地隣接の商業コア

2012.4 2017.2 避難指示解除の直前
どこにいても 『「町残し」をしなければならない。震災
浪江町民 前は「町おこし」だったが、今は町が存続
するのか、なくなるのかという岐路』

『**町外コミュニティ**を作りたいかった。ふるさととは生
まれ育った場所だけではなく色々な人と築き上げた人
間関係でもある。みんなでまとまって暮らせば浪江は
いいなとなる。いつかみんなで帰れる。』

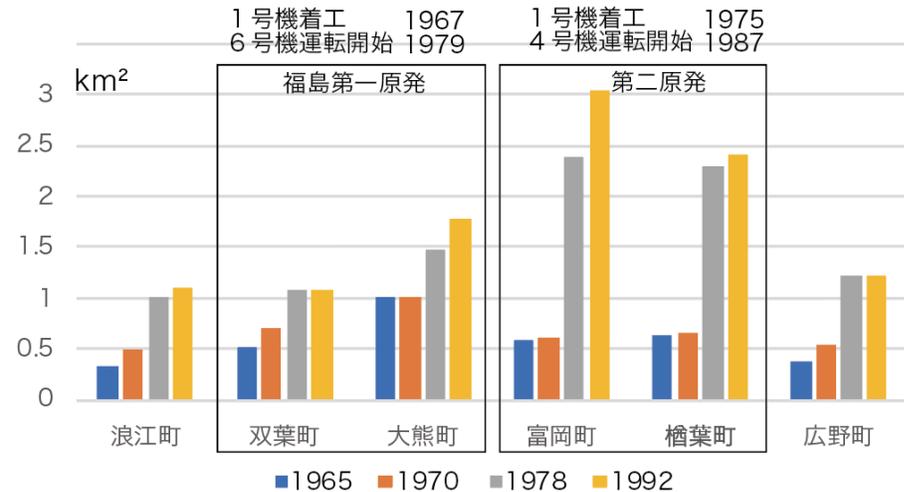
反実仮想：今とは異なる、もう一つのあったかもしれない姿

密な人間関係を可能にする町外コミュニティが実現していたら、みんなで帰還できたかどうかは不明。
しかし、みんなで集まって帰れたかもしれない。

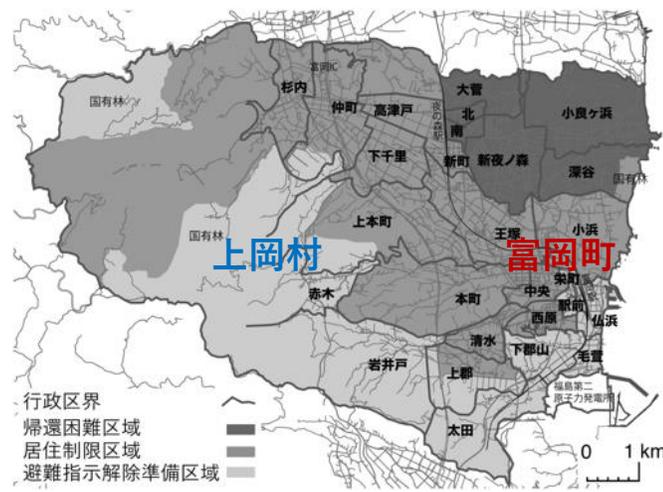
町政も町外コミュニティ計画も「町残し」をしたかった。
→ 「復興」 build back better の再考、「残す」という行為

富岡町の開発経緯と空間変容

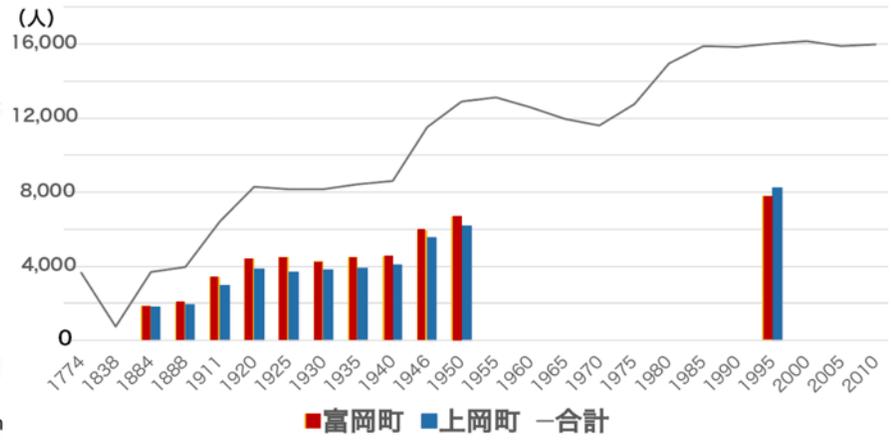
窪田垂矢・植田啓太 2022：原発立地かつ被災自治体である富岡町における開発経緯と空間変容-新たな産業と居住者はどう受け入れられてきたのか？、日本建築学会計画系論文集、87(802)、pp. 2440-2451



浜通り沿い自治体の市街地面積の変化



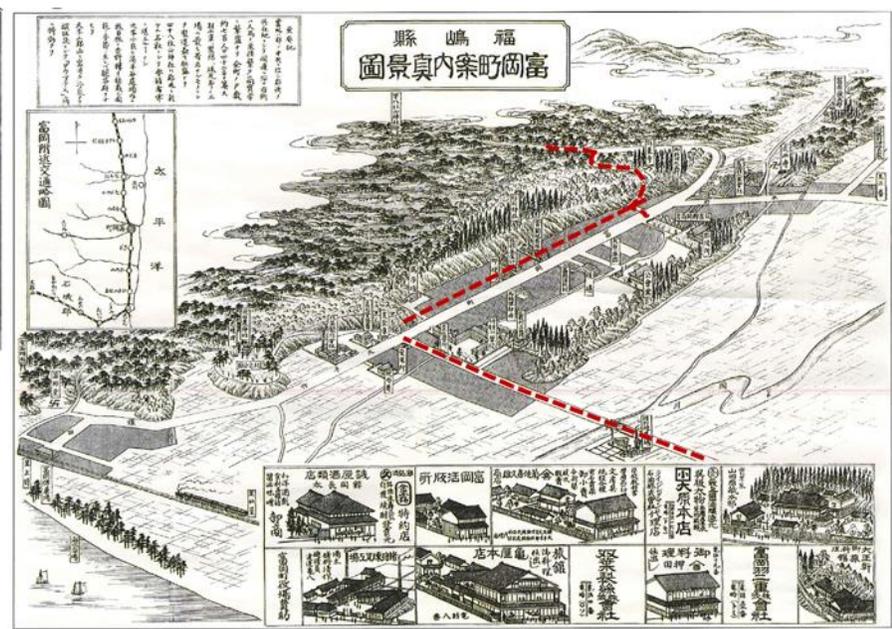
二つの元行政と27の行政区



富岡町の人口変化

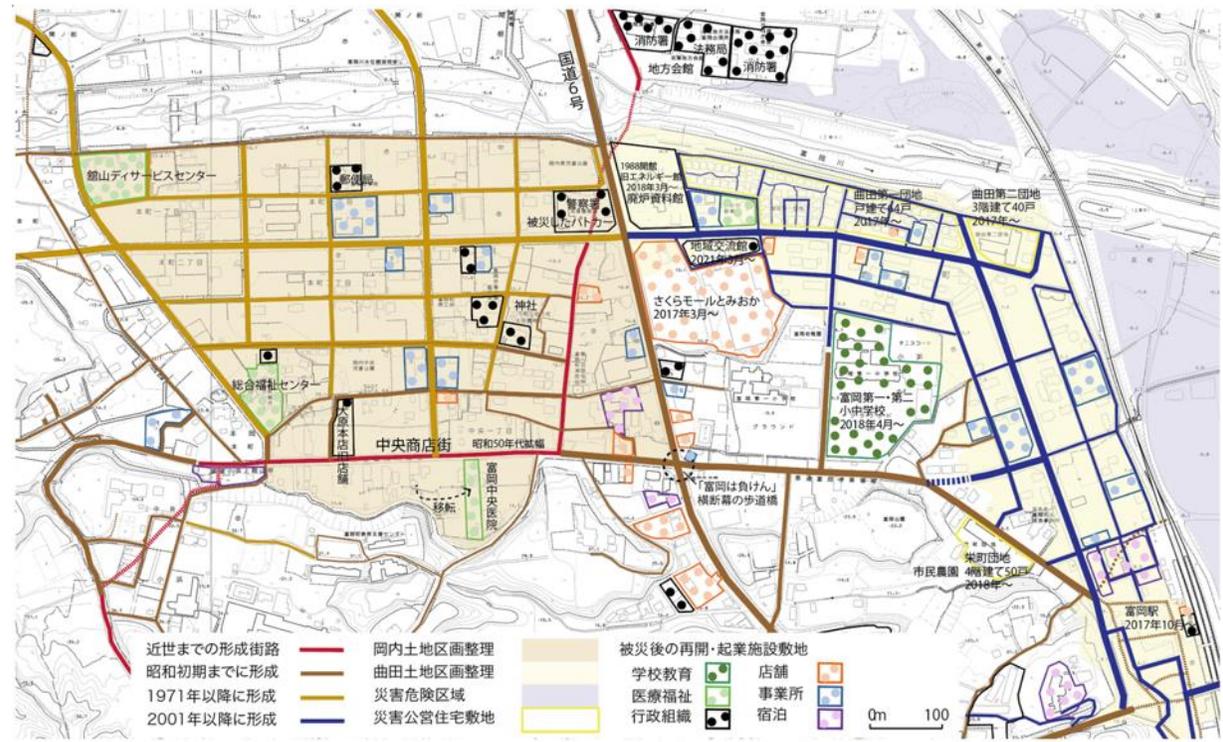


富岡町は、とりわけ市街地面積の拡大が著しい。人口停滞時に多種の開発により人口増加、近代以降唯一減少時に原発受入旧富岡町の伝統的な中心部は、陸前浜街道沿いその後の土地区画整理によって市街地が拡大

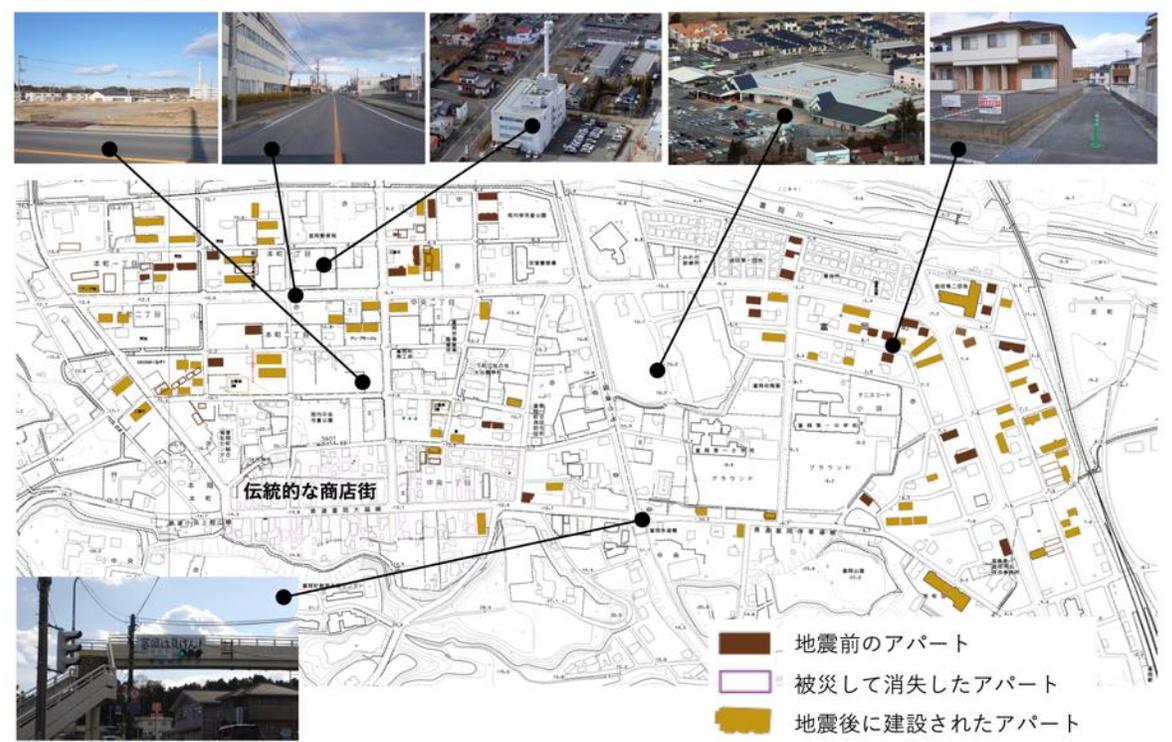


1923 富岡町案内真景図

富岡町の開発経緯と空間変容



旧富岡町中心市街地の道路形成／区画整理／被災後の再開・起業分布



まちなかの様相と単身者用アパート分布



浜街道＝中央商店街沿いの建物状況

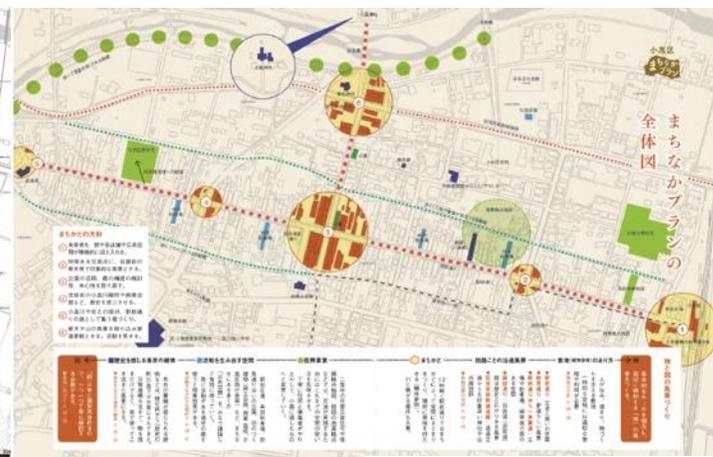


敷地単位で利用できる区画整理の方が、連担した伝統的敷地より使いやすい？
→ 復興したいまちは何か？ どう暮らしたいのか？ そのための環境とは？ 議論

南相馬市小高区における住民の応援

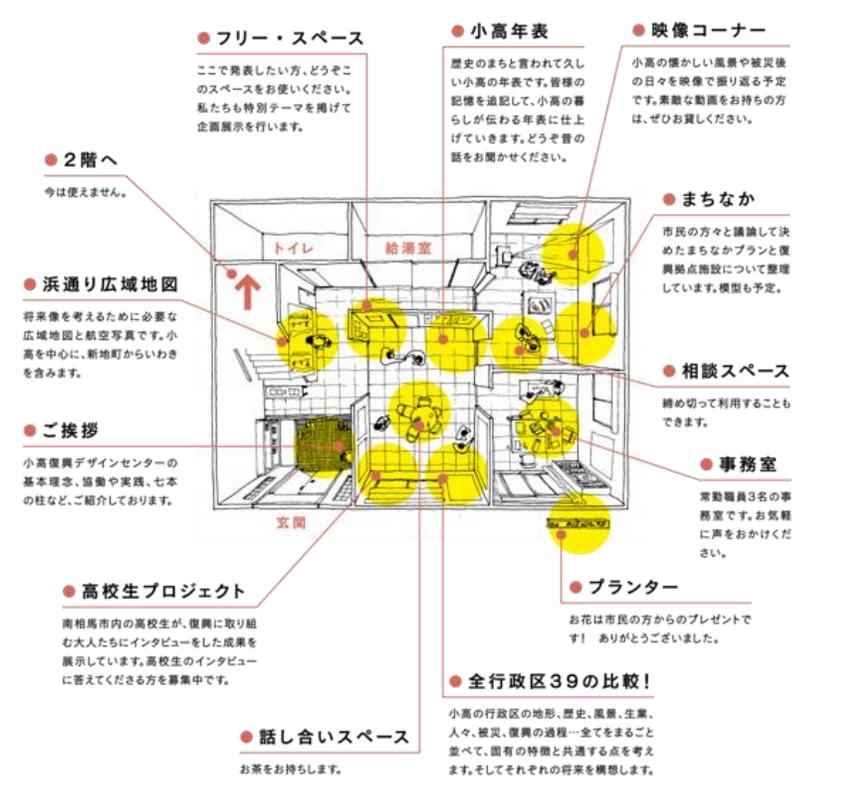


2014-現在まで住民と協働実践



小高復興デザインセンター

2016-18 市と共同運営
2019-22 住民と共同運営(復興庁予算)



南相馬市小高区における住民の応援

浦尻行政区

南相馬市浦尻行政区

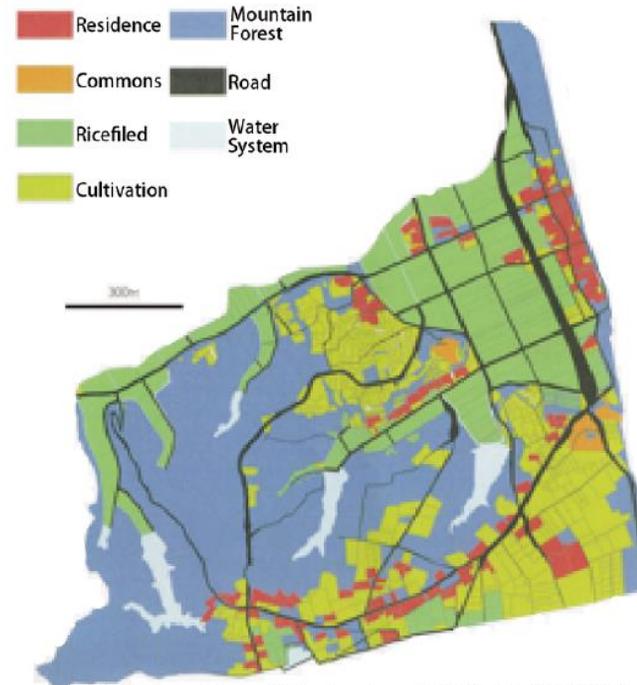
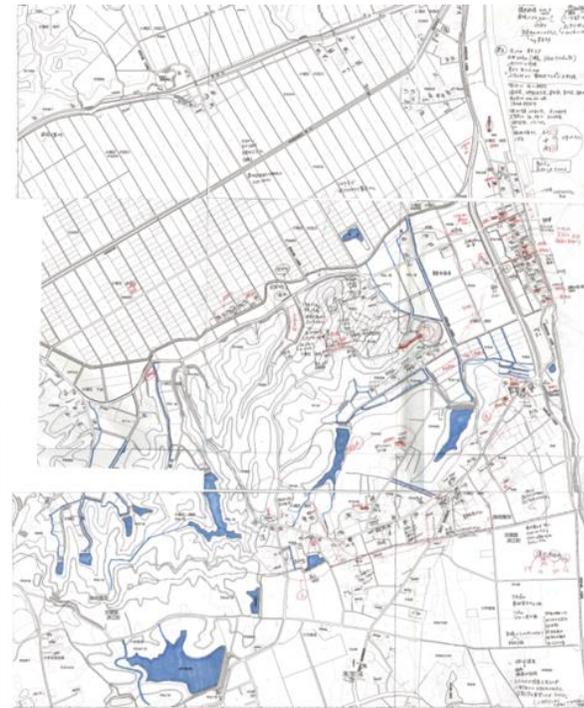


Fig.3 Land Use of September 2012 in Urajiri District ref.11)

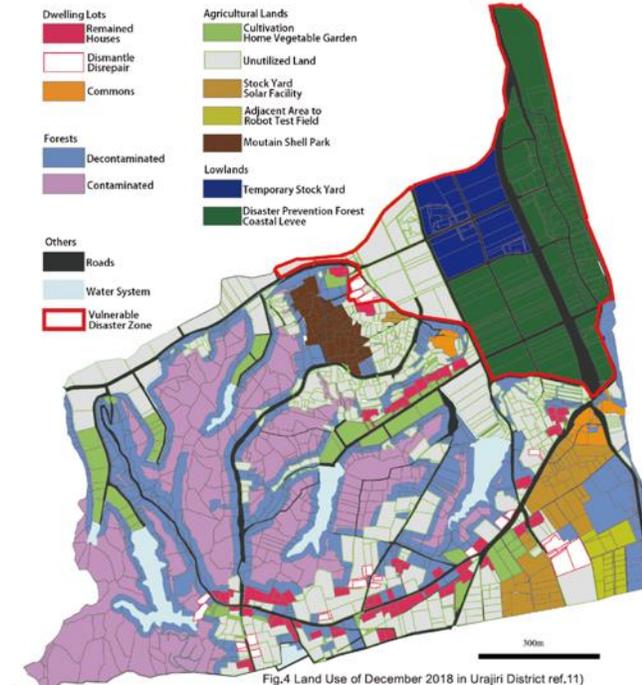


Fig.4 Land Use of December 2018 in Urajiri District ref.11)



- 検討会の様子を行政区の皆様にお伝えする「浦尻未来検討会NEWS」を作成全世帯へ郵送 (No.1~No.4 + 検討会のまとめ号)
- 浦尻行政区による意向調査
【時期】2017.10.10~10.23
【回収率】72 / 110世帯 (65%)
(うち帰還者20名・退会者33名)
- 「浦尻宅地農地山林道路等愛護会」の発足→行政区で管理組織を設立



浦尻未来検討会 NEWS No.1

2017年10月7日 小高復興デザインセンター

浦尻未来検討会、はじめました!

浦尻未来検討会は、3月の水害後に発足しました。浦尻の復興をやるべきこと、課題を明らかにし、地域再生デザインセンターが支援し、9月まで1回ペースで集まり議論していきます。

浦尻のまちづくりの課題を整理

（アンケート調査の結果を基に）

調査する課題

- ・ 復興するべきか
- ・ 復興するべきか
- ・ 復興するべきか

第1回目は、自己紹介の後、センターから、左の図のように「復興の目標の土壌と向き合い方」についての説明を行いました。

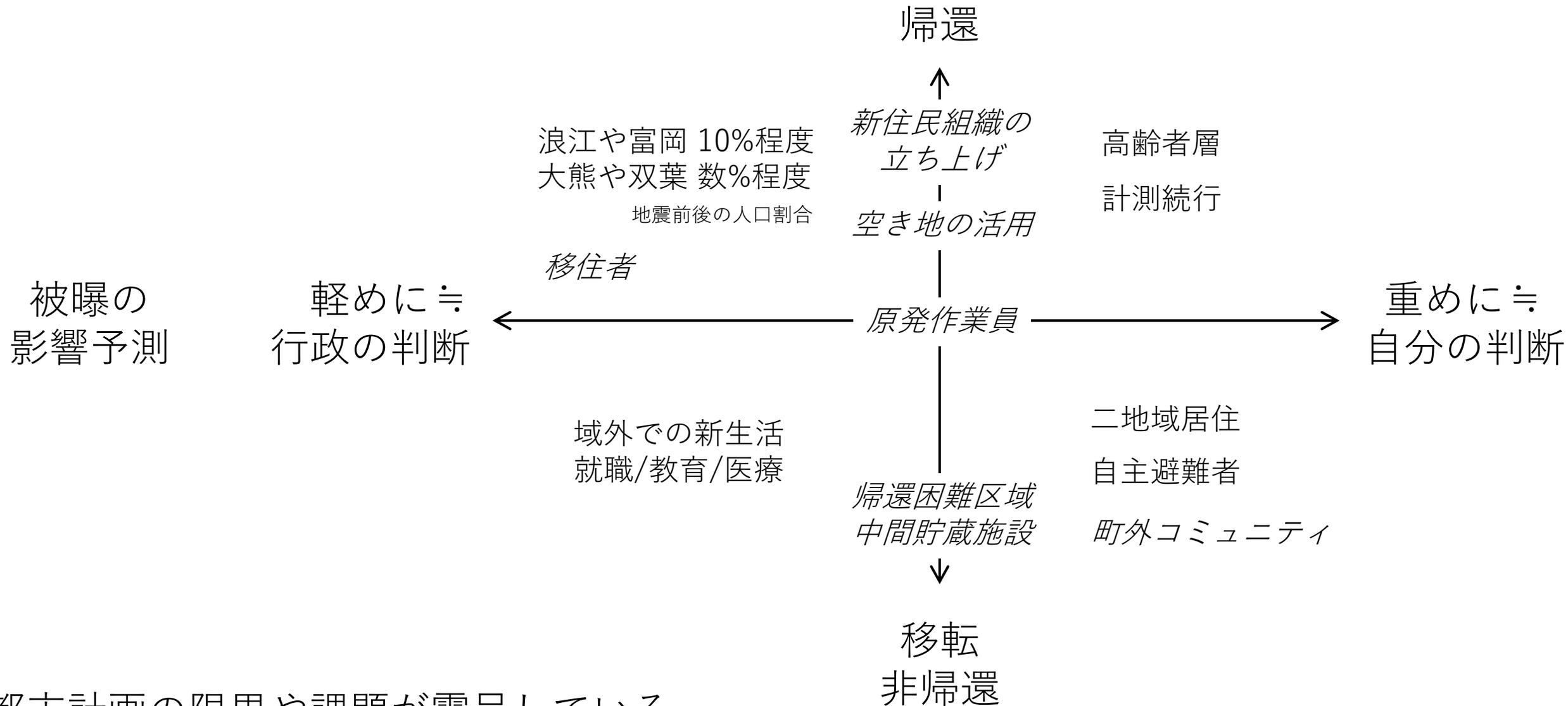
第2回目は、自己紹介の後、センターから、左の図のように「復興の目標の土壌と向き合い方」についての説明を行いました。

アンケート調査の結果は、浦尻の復興をやるべきこと、課題を明らかにし、地域再生デザインセンターが支援し、9月まで1回ペースで集まり議論していきます。

- 行政区という単位 = 集落
何が課題か、どう取組むか
- 自分達がやれる/やるべきこと
応答し続けようとする責任観
responsibility

窪田・李・萩原・益邑(2020)原発複合被災の土地利用・管理への影響把握と集落単位による対応に関する研究-避難指示解除を経た福島県南相馬市小高区浦尻行政区を対象として、日本建築学会計画系論文集85(773)1491-1501

原発事故避難者の現状 = 分断



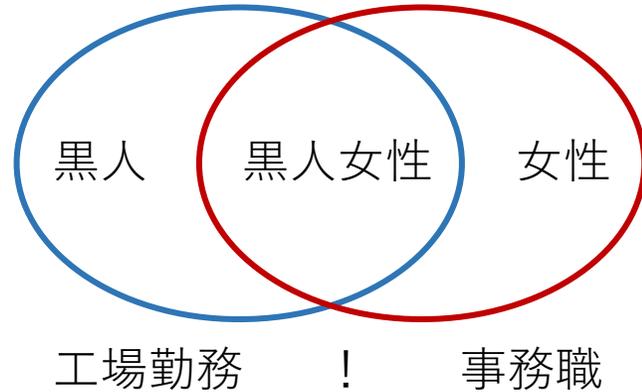
都市計画の限界や課題が露呈している

→住民による**自然的な取組**が生じている現場を応援する、せめて邪魔しない

分断を超えるために **インターセクショナルリティ** = 交差性

複合差別、重複差別

クレンショール1989



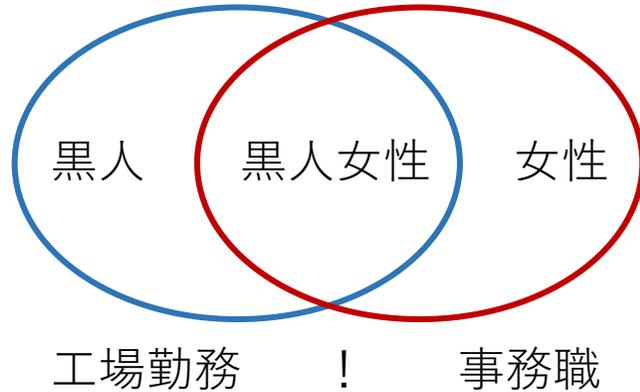
人種やジェンダーなどの複数の社会的、政治的アイデンティティの組み合わせにより、人々が経験する不公平さや有利さを識別するために使われる枠組み (Wikiより)

特に、差別を理解する概念として使われてきた

分断を超えるために **インターセクショナルリティ** = 交差性

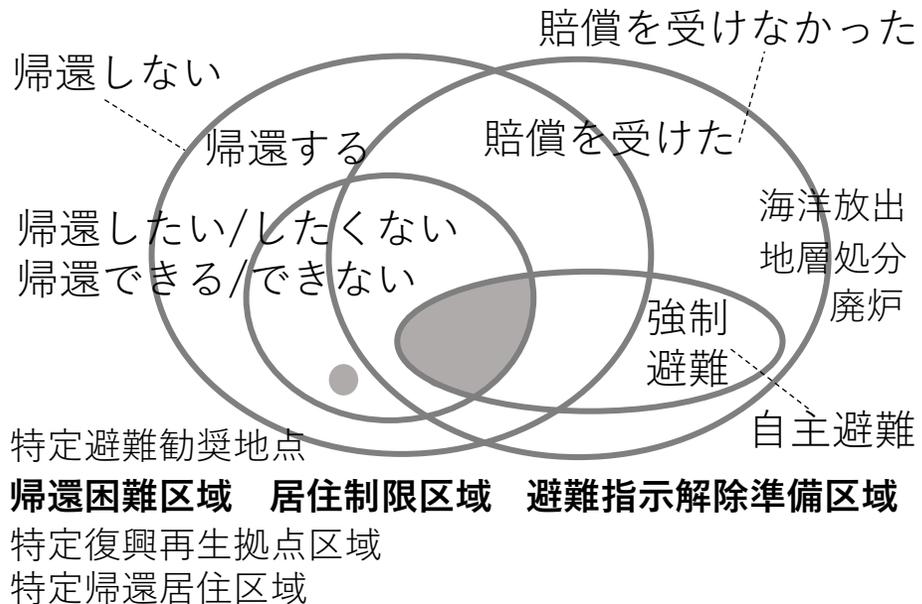
複合差別、重複差別

クレンショー-1989



人種やジェンダーなどの複数の社会的、政治的アイデンティティの組み合わせにより、人々が経験する不公平さや有利さを識別するために使われる枠組み (Wikiより)

特に、差別を理解する概念として使われてきた



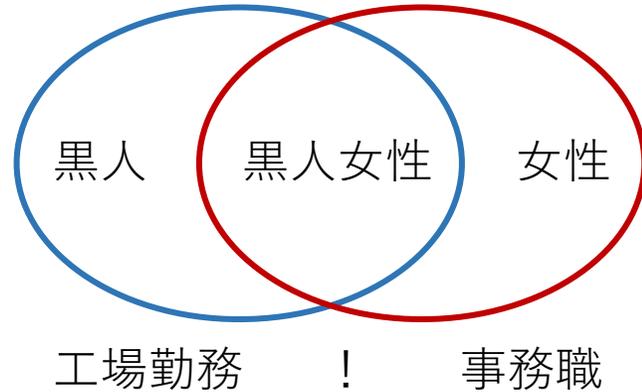
小さなカテゴリーによって分断されるのではなく

- ・ **交差性** という理解と
 - ・ 応答責任という態度が生み出す **信頼**
- **連帯** できる
- 応答の **方向の議論と共有**

分断を超えるために **インターセクショナルリティ** = 交差性

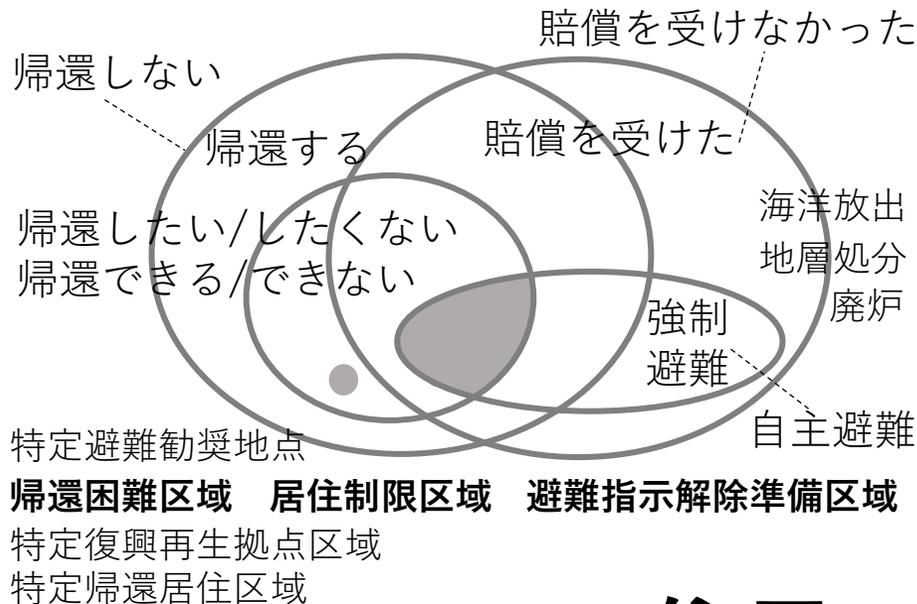
複合差別、重複差別

クレンショール1989



人種やジェンダーなどの複数の社会的、政治的アイデンティティの組み合わせにより、人々が経験する不公平さや有利さを識別するために使われる枠組み (Wikiより)

特に、差別を理解する概念として使われてきた



小さなカテゴリーによって分断されるのではなく

- ・ **交差性** という理解と
 - ・ 応答責任という態度が生み出す **信頼**
- **連帯** できる
- 応答の **方向の議論と共有**

住民の/による/のための「まちづくり」へ